

『信仰生活の中で最も大切な事②:教会』



(教会とは何か、教会の基礎、教会の真の主人、教会は究極的に勝利するのか、存在目的)

本日聖書本文:マタイの福音書16章13-20節・暗唱聖句:マタイの福音書16章18節

説教者:鄭南哲牧師

先週の本文を通して主が我々に最も大切に望んでおられる事がまず信仰告白であることが分かりました。

そして、つながる今日の本文にはもう一つが後半にもう一つが出ています。それは何でしょうか。そうです。それは主の教会のことです。信仰告白と主の教会、この説教にはこのようにみなさんが分かりやすく二つのテーマに分けましたが、実は今日の本文を通しては信仰の告白と主の教会は一つに結び付けられていて、別々にするのができないものでセット見たいなものであります。イエスを救い主、メシヤとして信じる者たちは主の教会から離れてられないし、教会に根ざし、教会中心とした信仰を持つ事になるべきです。なぜなら、本文を通してペテロのようにイエスキリストへの信仰告白の真理であられるイエスキリストが土台となり、この上にこの信仰告白した者たちを用いて主ご自身が主の教会を建てて行かれるからです。

今日聖書の本文の後半18節からは主ご自身がみずからイエスを唯一救い主のキリストであり、今も生きておられる神の御子として信仰を告白する者たちを用いてご自分の教会を建てていかれることを教えて下さっています。そのため信仰生活の中で信仰告白とともに最も大切なもののもう一つが教会であります。今日の御言葉には教会について大切な5つの質問に対する答えがあります。「一つ目、教会とは何であるか。二つ目、教会の基礎は何であるか。三つ目、教会の主人はだれであるか。四つ目、教会は究極的に勝利できるのか。五つ目教会の存在目的は」ということです。

①『まず、教会とは何であるかが大切です。』

みなさん、教会って何でしょうか。一言で言うと教会は“イエスキリストを唯一真の救い主として信仰告白をし、救われた主の共同体”です。主は失われた魂を救うために来られたという御言葉とともに、“わたしの教会を建てる”と言われました。神であるイエスキリストは我々を救われた後、その信仰告白をする者たちを集め、主の教会の一つの体になるようにさせました。教会の体になる我々は個人としてではなく教会という共同体として神様の救いと愛を全世界に証する使命を授けられました。

ここで我々がかならず覚えるべきことは教会はただ礼拝堂ではありません。教会は集まって、礼拝したり、御言葉を学んだり、自由に賛美したり、主にあって交わっていくための教会堂のような建物はとても必要ですが、主の教会自体は建物を意味してはいません。そして新約聖書において初代の教会を言う時、一度も特定の教派を言ったこともありません。いつも主の教会はイエスはキリストであり、生きておられる神の御子である信仰を告白し、救われた人々の群れとして使われています。原語のエクレーシアの意味は、“神に召し出され集められた群れ”です。つまり、キリストなしに罪の中で生きていた人がイエスキリストの福音を聞いてその方を信じ、救い主として受け入れ、罪から救い出されイエスに属する人をクリスチャンと言います。主はこのクリスチャンたちを通じてご自身の教会を形成されて行かれます。

私はこれからも我々の主の教会が狭い施設をもっと広げ、もっとたくさんの救われるべき魂が主の教会に入れるように、イエスキリストを信じる事ができるように願っております。そして小さい子どもからはじめ若い世代、お年寄りの方々がともに交わり、祈り合うことのできるもっとたくさんの空間があればと願っています。だからといって、われわれが忘れないでおくべきことがあれば、その建物自体が決して教会そのものではないことです。

ある特定の教団教派が教会という言葉の本質的な意味でもありません。

建物、そのものに集中しすぎてしまって、人を失ってしまうあやまちを犯してはいけません。もしくは、教派的優越感のゆえにむやみに批判したり、傷つけてしまうことがないように気をつけなければなりません。まことの教会は主を信じ、告白し、従っている我々です！

イエスキリストを救い主として受け入れ救われた個人個人が集まって主の教会をつくり上げていくのです。みなさんはキリストの体として、教会の体として美しい教会の一体になっているのです。ですから今も主イエスキリストがそう思っておられるように我々をもお互いをもっと大切に思うべきではないでしょうか。

②『教会の基礎が大切です。』

今日の本文の18節にイエス様は“この岩の上にわたしの教会を建てる”と弟子ペテロに言われました。教会が建てられるこの岩は何ですか。この箇所に対して、いくつかの解釈があります。

一つ目は、その岩をペテロという人として間違った解釈があります。すなわち、ペテロは初代教皇であり、この教皇をとおして教会が建てられたということです。これがローマカトリックの伝統的解釈(ペテロの首位権)です。しかし本文を正しく読んでみると、決してペテロが教会が建てられる岩になるわけにはいけない事がよく分かります。ここで岩という言葉はペテロ自身ではなく、イエスをキリストご自身であります。なぜなら、岩を意味する原語では‘ペトラ’という女性形の言葉で書かれているので、主から‘ペテロ(石くれ、石ころ:ペトロス)’と呼ばれた男性形をなので、あわないし、適合ではありません。そしてこの16章ではあなたがたがペテロである単数で使われていますが、マタイの福音書18章18節(まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。)を読んでみますと、ここでは複数で使われていることで、ペテロだけではなく、同じ信仰告白をする他の弟子たちにも主は同じ主の教会に対する管理者としての権限を与えて下さったので、ペテロ個人の上に主の教会が建てられることはありえないことです。

そして、後で十字架に向かおうとされるイエス様の事をとめようとしたペテロにイエス様は“下がれ。サタン。”(23節)と叱られました。彼が神様の御心とご計画を拒んだ時、イエス様はさりげなく彼の中に働いていたサタンに叱責されました。もし、このようにサタンの影響を受ける有限の人間の上に永遠のイエスキリストの教会が建てられるとしたら、はたしてその教会は力強く用いられるのでしょうか。ですから決してこの岩はペテロではありません。

そして、福音的な多くのクリスチャンの方々はこの岩はペテロの信仰告白ではないかと思っています。“人々は、人の子をだれだと言っていますか。そして、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。”とイエス様が弟子たちに尋ねた時、一番弟子であったペテロは“主はキリストであり、生ける神の御子キリストです。(16節)”と告白したこの告白の上に教会が建てられるという解釈します。

しかし、みなさん、ここで大切なのは、この信仰の告白自体よりは、信仰の告白の核心となるイエスキリストにあることを覚えなければなりません。言い換えると、揺るがない永遠の岩なるイエスキリストご自身の上に主の教会は建たされるわけで、この岩はキリスト以外、その名を言い換えるものはだれもないということです。

パウロも第一コリント10章4節で“その岩とはキリストです。”と言いました。

そして第一コリント3章11節では“だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。”と宣言しました。第一ペテロ2章4節でも“主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。”とペテロ自身も告白しています。そうです。この岩はまさに信仰告白の主体であられるイエスキリストご自身であり、イエス様の上に主の教会は建てられると約束されました。ですから、いつも教会の基礎となるのはイエスキリストであることを忘れないで下さい。人が土台になれば、すぐ揺れ動いてしまったり、倒れたにしますが、イエスキリストがうちの教会の基礎であり、土台であると信じれば、どれほど、安心で、感謝でしょうか。

③『教会の真の主人がだれかが大切です。』

イエス様は“わたしの教会を建てます。”と言われました。(18節)“わたしの教会”ここで、イエス・キリストの一番大切な愛情の対象はご自身の主の教会であることをよく表してください。

教会の主人はイエス様ご自身です。イエス様はわたしの教会だと言われました。教会の主人は牧師でも、役員でも、設立の時のメンバーでも、信徒でもありません。ですから、主の教会は人にたよってはいけませんし、人によって左右されてもいけません。教会の主人はイエスキリストです。わたしたちは教会のかしらであり、主人であられるイエス様に我々の視線と心を集中し続けなければなりません。

時々主の教会を歪曲させる二つの危険から我々を守らなければなりません。

例え一つはさきに居ついたものが地元風を吹かすことです。例え“このわたしがこの教会でどれだけイエスキリストに仕えてきたのか。献金をどれだけささげて来たのか。”といいながらイエスキリストのかわりに人が主人のようになってしまう危険から主の教会を守らなければなりません。

もう一つは教派的な頑なな固定観念も気をつけなければなりません。イエス様は長老教会を立てよう。浸礼教会を立てよう。とも言われませんでした。ただ、イエス様は“わたしの教会を建てよう。(聖書中心の教会)”と言われ

ました。本当に感謝なのは我々の教会がこれから加入しようとする日本同盟キリスト教団の教会がそのような教団であることを心から感謝と喜びを持っています。何か固まった一つの教派を作ろうとするより、共に聖書中心の信仰をしっかりと持って、日本、アジア、世界宣教の協力のために、主であって同じ主の教会、同じ教職者、同じ信徒として、共に話し合い、共に支え合って歩んでいる教団であるからです。

これから主の教会であるクリスチャンプレイズチャーチも、牧会者も信徒たちもいつもかしらなる主の教会を主の御言葉通りにしっかりと従いつつ、一つのキリストの体として主の教会を愛しつつ、ともに支えあい、補い合っただけでなく、さらに強く組み立てられていきますようにお祈り申し上げます。

教会の主なるイエス様が“わたしの教会をわたしが建てた。これはつまり主御自身が主の教会をつくり上げていく。”ことを宣言されたのを覚えましょう。

(エペソ人への手紙 1 章 22-23 節：「また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」)

コロサイ人への手紙 1 章 18 節：「また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。」) もちろん、イエスキリストを主として信じ、告白し、従うものたちを祝福し大事に用いて下さって主の教会を建てていけます。しかし、イエス様は教会の創設者であり、基礎となりご自身の教会を建てていられることを共に信じて主の教会が立てられていくためにわれらが続けて用いられるその恵みと栄光を覚えればさらに謙遜に、感謝を持って仕えていく事ができると信じます。

④ 『主の教会はかならず勝利することを信じる事が大切です。』

本文 18 節で主はこう言われました。“わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。” “ハデスの門もそれには打ち勝てません。” これはどんな意味ですか。ハデスつまり地獄の門も教会を揺り動かすことができないということです。これは三つの観点で理解されます。

地獄さえも教会や信徒たちを決して飲み込むことができないということです。イエス様は“わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。(ヨハネ 10:29)” だれが我々をキリストの愛から離す事ができるのでしょうか。地獄は決して主の教会を飲み込むことができません。

以前中国に共産主義が実現された時、教会は多くの迫害や厳しい監視によって永遠に消え去ったと人々は思いました。ところが、数年前、中国がはりの穴ほどの宗教の自由を許してから、毎週三千人、もしくは数百人が一気に教会に集まってきました。これは何を言っていますか。イエス・キリストの栄光なる教会は地獄でさえも揺り動かすことのできない御力を持っていることを示してくれました。

ハデスの暗闇が神様の教会を激しく攻撃して来るかも知れません。しかし、けっして神の教会を倒すことはできません。そしてついに最後の勝利者であられるイエス・キリストが、治めておられる主の教会はこの勝利の尊い主役になるでしょう。ですから、教会の体である我々もキリスト・イエスにあってともにこの勝利の喜びを味わえるでしょう。主の教会の体である我々にこの変わらない決まっている保障と希望が与えられていることをみなさんは信じますか。

例え) イギリスのスパルジョン先生に一人の信徒さんがたずねてきてお願いをしました。“先生、問題のない完全な教会を紹介してください。”すると、スパルジョン先生は“そのような教会があれば私にも紹介してください。私もその教会のメンバーになりたいです。”と言って、最後にその人に忘れられない一言を言いました。“しかし、あなたがそのような教会を見つけたらあなたはぜひその教会の会員にはならないでください。なぜならあなたがその教会の教会員になればその教会はあなたのせいで完全だった教会が不完全になってしまうかも知れないからです。”

これはイエスキリストをまことの神であり、救い主として信仰告白した者たちを通して主がご自身の教会を地上に建ててくださいますが、主の教会に属している我々は完璧ではなく、不完全な人々の集いであることを示してくれる話です。しかし、それにもかかわらず、聖書は教会は主イエスキリストのものだと教えています。

地上の教会は成長の過程において苦しみや痛みがあるでしょう。この陣痛を出産の痛みとして理解してください。子を産むために母親が血を流し、苦しみの犠牲をとおして新しいいのちを胸に抱くではありませんか。子どもた

ちが成長し、成熟していくうちに 家庭は様々な苦しみや葛藤を覚える時もあります。しかし、この時期が過ぎたら、子どもたちは成長し成熟していきます。主の教会も信仰が成長し、成熟して行くうちに陣痛と葛藤を覚える時もあります。しかし、これをとおして主に喜ばされる成熟した信仰の共同体として建て上げられていくのです。そして、かならず我らの主は、我々の苦しみを勝利への喜びとして変えてくださることを信じて下さい。

初代教会の教父たちは“教会を母として仕えない人は神を父として呼ぶ資格がない。”と告白しました。主の教会中心の信仰を強調していた言葉でありながら、我らの信仰は主の教会のかしらであられるイエスキリストに深く根ざし、その土台の上に建てられて行くときこそ、まことの信仰の勝利、人生の勝利を得ることができるという主の約束を握って進みましょう。ともに主にあって作り上げられ、共に建てられ、共に満たされ、共にキリストにあって成長し、共に成熟されていく中で、年末年始、さらに主の教会とともに勝利をおさめていくクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんとなりますよう主の御名によって祝福します。アーメン！

⑤『教会の存在目的の大切です。』

主が今ペテロに対して、主の教会が誕生されることを約束されましたが、主の教会はただで生じません。主の血が流される聖い死がなければなりません。主がそのことを知らせて下さったわけです。天に隠された秘密とは、イエスキリストの十字架の血潮と復活によってこの地に生まれた主の教会です。救い主イエスキリストの教会だけが、淫らで曲がったこの世に打ち勝つ唯一の代案であり、希望であると信じます。今も生きておられ、共におられる主イエスキリストが今もペテロのようにただ唯一イエスキリストのみが 生ける神の御子キリストであり、救い主であると信じ、告白するものたちを通してかしらであられるご自身の教会を建てさせてくださっています。

「この方にあって、くみあわされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、(エペソ2:21)」そして、この主の教会はあらゆる神の祝福の源であります。

「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。(エペソ1:23)」。いっさいのものを満たして下さる方が復活された主イエスキリストであり、聖霊で満ちたところが主の教会であります。ですから、主を告白し、信じる者たちは主の教から離れたら、決して祝福を得ることができません。教会のかしらは主イエスキリストだからです。

愛する信仰の家族みなさん！教会は聖徒たちが集まっているのではなく、教会のかしらとなられた主イエスキリストが信じる聖徒たち一人一人を結び付けて下さったゆえに主にあるせいなる神の宮となるのを忘れない下さい。ですから、教会を建てて行かれる方も、教会を導いていかれる方も、主キリストご自身です。そのため、主の教会は祝福の源となり、主の教会内にいる聖徒たちは神に祝福されます。しかし、主イエスキリストがご自身の教会を建ててくださるのは、信じる者たちを祝福するだけではありません。まだ真の神の御子であり、救い主なるイエスキリストを知らない多くのさまよう魂の救いのために、主のからだとなる教会の信仰共同体は世に出て、信じない人々に福音を宣べ伝えなければなりません(マタイ28章18-20)。

神にあるあらゆる祝福と目には見えない主の愛が、イエスが真の救い主キリストであると告白し、信じる者たちを通じて世に宣べ伝えられるよう、主は教会を建ててくださったことを覚えましょう。実はこのために主が11年前にこの小牧の地にも主の教会を建てて下さったのではないのでしょうか。クリスチャンプレイズチャーチの存在する目的はまさにそこにあります。

ですから、イエスキリストのみが我々を救う事ができる唯一真の神、救い主であることを信じ、告白して救われた我々がそこでとどまらず、さらにこの福音を聞いたことがない、知らない、信じてない多くの魂の救いのために主の教会であるクリスチャンプレイズチャーチが宣べ伝えることに共に励んで行くことが主から任されている主からの使命であることを忘れてはいけません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

ますます我らのまわりは以前のピリポ・カイザリヤの混沌で暗くなっています。主イエスキリストへの信仰告白を明確にし、鮮明にし、しっかり保って、常に告白しつつ主にあって幸いに歩まれますよう切に祈ります。そして、この世の来られた真の神であり、メシヤなるイエスキリストの真の意味をまったく知らずに歩んでいる日本の多くの魂のために、いや一人の魂でもわれらと共に同じ信仰告白をして是非救われるよう、さらに主にあって一つとなって共にキリストの使命を持って励んで行く主の教会であるクリスチャンプレイズチャーチとなる2015年になりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！